

活動紹介

千葉県森林インストラクター会

活動分野	千葉中央・九十九里部会		
タイトル	旧千葉県環境緑化センターの樹木 100 種で何を語るか		
実施日時	平成 29 年 10 月 31 日（日） 10 時～15 時		
実施場所	袖ヶ浦市 旧千葉県環境緑化センター		
受講者	名	F I C 会員他スタッフ	13 名

活動の内容

10 月度の中央・九十九里部会は FS（フォローアップセミナー）との共催で、袖ヶ浦市長浦の旧千葉県環境緑化センターの植栽樹木 100 種を観察、森林インストラクターとして一般の方々にそれぞれの樹木を如何にわかりやすく説明するか？のための研修を実施しました。観察する樹木は、FS で取りまとめ中の『FIC が選んだ千葉県の樹木、身近な樹木 100』の候補樹木を中心に、千葉県に自生する樹木だけでなく公園などでよく見かける外来種を含めた樹木の 100 種です。

本日の企画を担当された寺嶋さんの概略説明の後、センター内の樹木 100 種を観察、定番の樹木以外にセンターのシンボルツリーである中国原産のギョリュウ、カナダ原産のピンオーク、オーストラリア原産で一時肥料木として植栽されたモリシマアカシアなど観察しました。

午後は、「施設の沿革と概要」について緑化推進委員会の石谷さんから説明を受けました。京葉臨海埋め立て地（京葉工業地帯）の工場緑化推進のために当設備が設置されたこと、そこでの工場緑化に適する技術開発成果が地域一帯の環境緑化に役立ったこと、常緑樹林の潜在植生である坂戸神社の森を参考に

してモデル林を造成した等の興味深い、森林インストラクターにとっても重要な知見を含むお話でした。

最後に、子どもを主体としたイベントに活用するための簡単にできるパフォーマンス、「体験！不思議樹木」

です。寺嶋さんが、「光る木」＝枝の切り口から紫外線光により発光する物質を出す樹木（アオダモ、アカメガシワ等）、「石けんになる木」＝サイカチ、ムクロジ等、「葉書になる木」＝セイヨウバクチノキ、トウネズミモチ等、その他葉っぱあそび等の実演を行い、盛り沢山の研修を終了しました。



ピンオークの Donguri



「光る木」アオダモ

